

園芸タイムリー情報

《10月上・中旬版》





令和3年 10月5日発行 第10号
 上川農業改良普及センター
 Tel : 0166-84-2017 Fax : 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage : http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm



全作物共通

天気は、1週目は曇りの日が多く、2週目は数日の周期で変わり、平均気温は1週目は高く、2週目以降は平年並の見込みです。降水量・日照時間は平年並の見込みです。

- ①ハウスは夜間の保温に努めるとともに、日中はこまめな換気による適温・適湿の確保により生育環境を整えましょう。
- ②栽培を終えたハウスは、翌年の病害虫の発生源となる作物残渣を搬出し、被覆資材を冬期間除去して、翌年の発生を抑制しましょう。越冬ハウスは、内部の雑草及び作物残渣を枯死させるか除去し、栽培する作物等に害虫が寄生しないように管理しましょう。
- ③次年度に備え、栽培跡地や施設周辺への排水溝設置や心土破碎等により、土壌物理性を改善しましょう。
- ④日没が早くなるため、ゆとりのある計画的な作業を行いましょう。気温が低く湿った環境での作業時は、保温性の高い作業着・防寒手袋を着用し、こまめに休息を取りましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜など葉菜類全般	作物名	パセリ
病害虫生理障害名	ウスカワマイマイ	病害虫生理障害名	かびに覆われた葉
		うどんこ病	
		発生状況	
発生状況		発生時期	8月上旬～
少～中発生			
発生時期			
4月中旬～	チャコウラナメクジ		白色粉状のかび
発生の状況・要因		発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、苔の下、日陰など暗くて湿気が多い場所を好み、地中で越冬する。 葉の食害の他、本体やフンの混入が問題となっている。 雨天時や夜間は活発に活動する。 寒くなる10月はハウス内へと侵入する個体が増えるため、注意が必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> 葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。 ハウス内温度28℃前後で、乾燥した条件下で発生しやすい。 8月下旬以降発生が見られるので注意が必要である。 	
対策		対策	
<ul style="list-style-type: none"> 常発ほ場では通気を良くして湿気を放出する。 ハウス内外の雑草や苔をこまめに除去する。 スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。 		<ul style="list-style-type: none"> ほ場を乾燥させすぎない。 発生前から予防的に薬剤散布を実施する。 発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。 	
<防除の一例> ●スラゴ 1～5g/m ² (3.3～16.5g/坪) 発生時		<防除の一例> (発生前 7日～10日間隔で散布) ●クムラス 500～1,000倍 — — ●サンクリスタル乳剤 300～600倍 収穫前日まで — (発生初期) ●アフェットフロアブル 2,000倍 収穫3日前まで 2回以内	

作物名	ピーマン	発生の状況・要因	
病害虫生理障害名		<ul style="list-style-type: none"> 20℃以下の低温と多湿により発生が助長され、発生が増えてきている。 茎葉では発病部位から上が萎れて枯死、果実では軟化腐敗、幼果では落果が見られる。 	
菌核病		対策	
発生状況		<ul style="list-style-type: none"> 多湿が発生の原因となるので、ハウス内の換気に努める。 発生が見られる場合は、灰色かび病と合わせて薬剤防除を行う。 土壌中や被害残渣に形成された菌核が翌年の感染源となるので、発病を放置せずに薬剤防除や被害茎葉の除去を行う。 	
中発生		<防除の一例>菌核病の登録薬剤 ●ロプラール水和剤 1,000倍 収穫前日まで ※ ●ロプラールくん煙剤 100g/300～400m ³ (床150～200m ² ×高さ2m) 収穫前日まで ※使用回数は水和剤とくん煙剤と合わせて4回以内	
発生時期		<防除の一例>灰色かび病の登録薬剤 ●アフェットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●スミレックスくん煙顆粒 6g/100m ³ 収穫前日まで 5回以内	
—	 茎葉での発生 発病部位から上が萎れる  果実での発生 褐変し、水浸状に腐敗する		

土壌分析を実施しましょう

土作りの第一歩は土壌診断です。3年に1度は土壌診断を行い、施肥設計に活かしましょう。

【土壌の採取方法】

土壌の性質は、一筆のほ場の中でもかなりのばらつきがあります。
生育に差が見られない場合は、対角線に5か所以上を採取し、よく混ぜて一つの分析用の試料（500g程度）とします（図1）。
生育に差が見られる場合は、それぞれを同様に採土してください。

このとき、表層部を薄く剥いだ後、耕起する深さまでV字型に掘り、その面に沿って一定の厚さで採土します（図2）。

野菜畑などでうね立てしてある場合は、隣のうねにかけて採土するか、うねとうね間を交互に採土します（図3）。

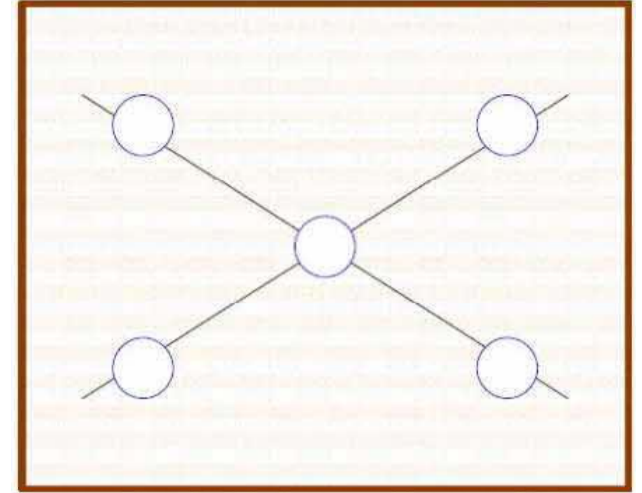


図1 土壌の採取位置

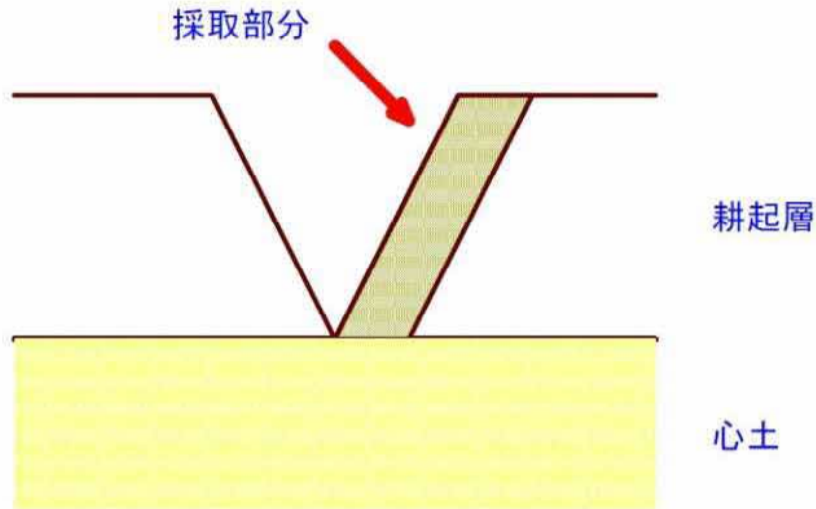


図2 土壌の採取深さ

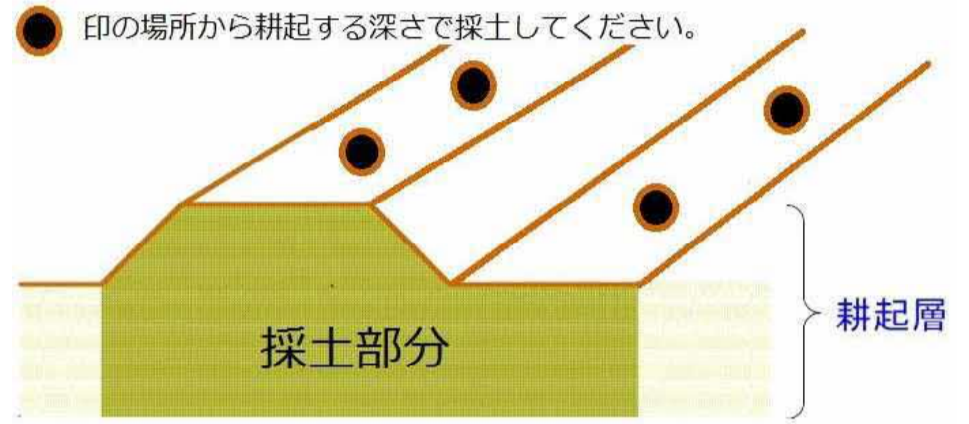


図3 うね立てしている場合の土壌の採取位置

◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。

なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。

◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域（旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町）向けに作成されています。

気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。（不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません）

※掲載されている農薬情報は、令和3年9月29日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用 【環境保全編】 □■□■□■□

—適正な農薬使用は整理・整頓・散布時の確認から—

環境負荷の軽減・環境保全機能の向上に配慮した土壌管理

- 堆肥等の有機物の有効活用、作物残渣等のすき込みによる土づくりに努めましょう。
ほ場に残すと病害虫が蔓延する場合などを除き、土づくりに利用します。
- 土壌・作物診断等に基づく適正な施肥を実施しましょう。

不必要・非効率なエネルギー消費量の削減

- 農作業を行う中で、省エネルギー化が可能な部分がないか調べましょう。
(① 運搬ルートの見直し、② アイドリングストップ、③ こまめな消灯、④ ハウスの被覆資材の修理、
⑤ 冷蔵庫や暖房の温度設定の最適化 など)